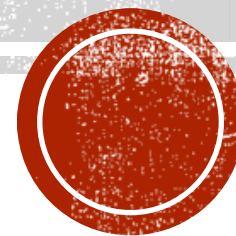


家に帰りたい！帰したい！

～全部署が協力して出来たこと～



介護老人保健施設アゼリア



発表者：須田明敬

共同研究者：中嶋泰久 高山香織 宮本有子

【はじめに】

介護老人保健施設の役割である在宅復帰の支援強化を図り、在宅生活を実現する為に、今まで取り組んできたことでは不十分と考え、それぞれの専門職にて協議する場を定期的に設けることとし、1回／月の在宅支援検討会を始めた。

その取り組みについて報告する。



【目的】

- 1) 各部署で毎月課題を設け、出席者にて検討を行い、在宅復帰の実現を目指す
- 2) 計画的に在宅復帰支援が行えるよう、情報共有を図り進捗を確認し合う
- 3) 在宅復帰予定者のスムーズな在宅復帰支援を行い、在宅復帰・在宅療養支援加算を取得する



【対象】



☆在宅復帰を希望している方

☆職員側からの視点で在宅復帰が検討できる方
(サービス付高齢者住宅・有料老人ホーム・グループホーム等を含む)



【方法】



1) 1回／月(第2金曜日)の17:30～検討会
(処遇協議も含む)を開催する

平成27年7月24日～開催、8月～第2金曜日の開催
と固定した

※サービス担当者会議でのカンファレンスとは別に実施

2) リハ・支援相談部門は基本全員参加、各フロア・看護・デイケアは担当者を決めて参加する

3) 予め議事録を立ち上げて、事前に各部署入力をする

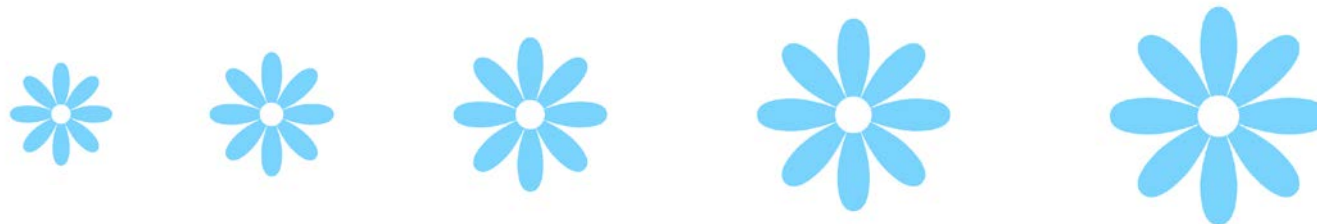
4) 訪問時の自宅写真を用いて説明し、環境の共有化を図る



【結果①】

- 1) 担当者の固定により、チームとしての検討・協議が継続して行えた
- 2) 検討会を全部署で開催する事で、共通の課題の取り組みがスムーズに行えた
- 3) 処遇検討も同時に行えることから、新たに課題が見出された場合はケアプランに反映することができた
- 4) 定期的に行うことで進捗確認の漏れが少なくなった
- 5) 訪問に参加できないスタッフも在宅環境の写真を見ながら報告を受ける事で情報共有を図ることができた

【結果②】



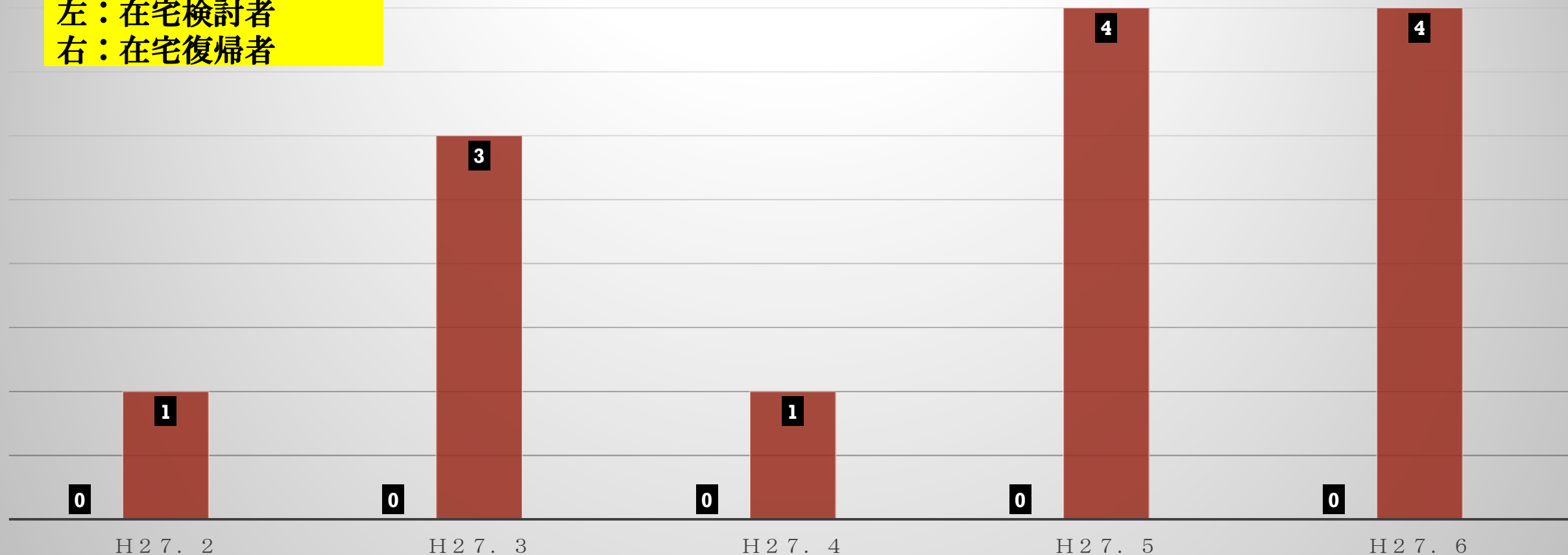
- 6) 業務主任だけでなく、担当を決めたことにより、
責任・意識を持って在宅復帰支援に取り組めた
- 7) デイケア担当者も参加し、在宅復帰後のデイケア利用に
についても情報共有が図れ、お試しデイケア利用について
も検討できた
- 8) 在宅復帰検討者が多い時には時間が掛り、スタッフの負
担も大きかった(会議時間短縮の為に、予め議事録立ち上
げ・事前入力をしているが、意見交換が活発になると会議時
間は長引いてしまう)



在宅復帰検討者と復帰者の人数

H27. 2～6

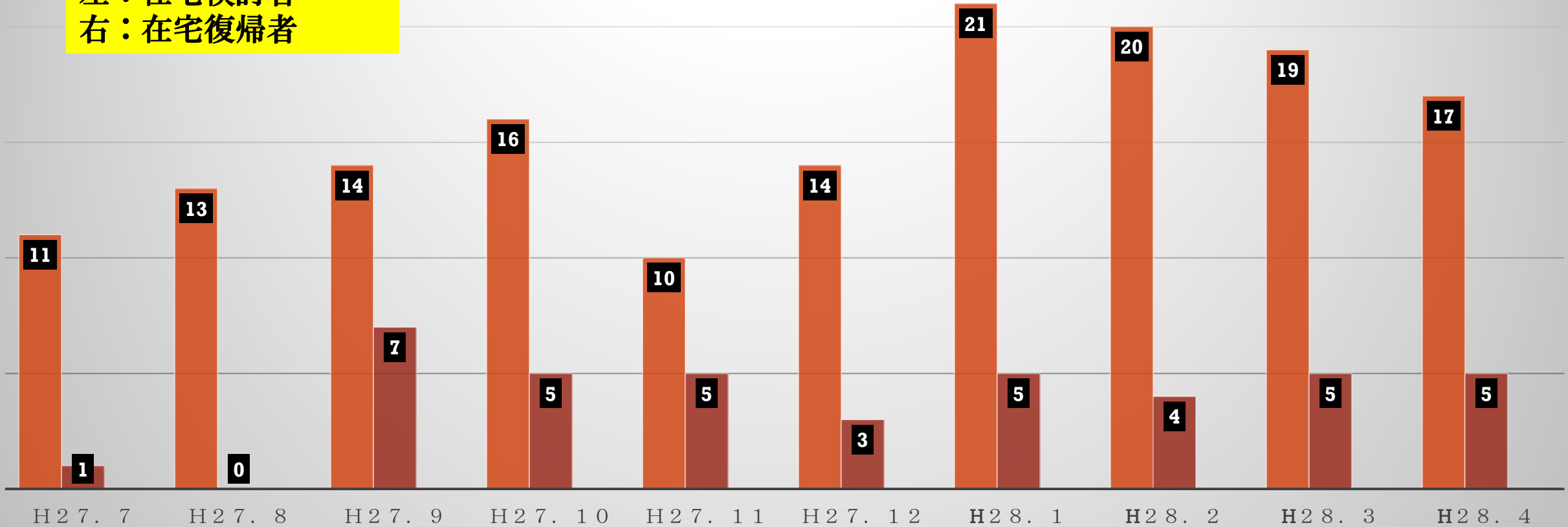
左：在宅検討者
右：在宅復帰者



在宅復帰検討者と復帰者の人数

H27.7~

左：在宅検討者
右：在宅復帰者



【今後の課題】



- 1) 負担軽減の為、事前入力以外の検討効率を高め、時間短縮を図る必要がある
- 2) 自宅以外の在宅復帰支援の環境等具体的なイメージに不十分さがある為、施設等の特色・環境等を学ぶ機会を設ける必要がある
- 3) 自フロアケース以外のフロアスタッフから意見が出ることが少なかった為、参加スタッフ全体から意見がでるような工夫・検討の必要がある
- 4) 月1回の開催の為、在宅復帰に向けた調整に時間を要す事が多く開催回数や検討方法、課題の進捗については検討が必要



【まとめ】

施設全体の取り組みにより、平成28年3月から在宅復帰・在宅療養支援機能加算が取得できた

全部署の時間的な負担はあったが、「家に帰りたい！」と希望される利用者の在宅復帰を実現できた時の喜びは、スタッフのモチベーションUPにも繋がり、個別ケアの視点も向上している

今後も施設全体を1つのチームとして、より在宅復帰支援の強化に向けて取り組んで行きたい





**ご清聴
ありがとうございました！！**

～「健やかなる老い」の場は家庭にあり、
その早期復帰を目指すこと～